

指定管理者の期末モニタリング

施設名	公設宮代福祉医療センター	年度	令和5年度
指定管理者	公益社団法人 地域医療振興協会	担当課	健康介護課
指定期間	令和4年4月1日 ～ 令和14年3月31日	期別	第4期
施設の目的	初期診療の拠点となる診療所に加え、介護老人保健施設、訪問看護ステーション、通所リハビリテーション施設、居宅介護支援事業所、保育所の6つの機能を複合した施設で、地域における保健・医療・福祉を一体的に包括して、乳幼児から高齢者までが住み慣れた環境の中で、生きがいをもって暮らせる社会の実現を目指すことを目的とする。		
業務の内容	(1) 診療所 初期診療の拠点として、休日夜間診療、在宅医療（往診・訪問看護）に対応する。 (2) 介護老人保健施設 病院の入院治療を終えて病状が回復期・安定期にある要介護者を対象に、看護・介護・リハビリテーションに重点をおき、高齢者の在宅復帰を目指す。 (3) 訪問看護ステーション 病院等の退院後、医師の指示に基づいて看護師等が家庭を訪問し、療養の世話や診療の補助などのサービスを提供する。 (4) 通所リハビリテーション 日帰りで、要支援者、要介護者に対するリハビリテーション等を提供する。 (5) 在宅介護支援事業書 介護保険サービスを受ける要介護者の在宅介護に関する相談や計画、連絡調整を総合的に引き受ける。 (6) 保育所 医療施設や高齢者福祉施設との併設の機能を生かし、通常保育、障がい児保育や病後児への対応、世代間交流事業等により新しい形の保育サービスを提供する。		

総合的な評価

【総合評価】 A優良 0 B適正 14 C改善 0

・医療・福祉の包括的な施設としての役割を果たしており、センター運営は健全に行っていた。
・令和5年度は、町民参加による運営懇話会を年2回開催して意見を聴取していた。特に要望等は出されなかったが、引き続き、町民の意見に耳を傾けた事業を展開し、町民ニーズに応えられるように努めていきたい。

【評価事項】

・町の予防事業の一つである予防接種事業では重要な位置を占めている。
・リハビリテーションスタッフの充実により、町民から好評を得ていた。
・障がい者の就労支援事業の一環で、洗濯業務として働く環境を継続して提供していた。
・引き続き電気使用量の削減に努めていた。
・職員は様々な研修への参加や自己学習を行い、知識の習得や技術の向上に努めていた。

【改善事項】

・物価高騰により経営環境が厳しさを増しているため、更なる経営努力と工夫が求められる。
・在宅医療に対する必要性が高まっており、休止中の訪問看護の再開が待たれる。
・診療所利用者の高齢化・多様化に柔軟に対応した接遇力の向上を図っていただきたい。
・医師の働き方改革による年間勤務時間上限設定後の休日及び夜間診療の対応については慎重に配慮願いたい。

1. 施設の管理運営・事業

評価

B 適正

令和5年度実績の年間外来患者数は32,979人（対前年度比 3.1%増）、入院患者数は2,171人（対前年度比 12.2%減）、入所利用者数は25,644人（対前年度比 5.7%増）、通所リハビリ利用者数は10,469人（対前年度比 6.6%増）であった。

2. 利用者の公平確保

評価

B 適正

診療所に利用制限はなく、介護老人保健施設は介護保険で定められた条件を満たせば利用可能であり、利用者の公平性を保っていた。また、利用料（診療・介護費の自己負担分）の徴収率もほぼ100%であった。

3. 職員の配置、研修等	評価	B 適正
・育児休業や退職に伴い非常勤職員を採用し対応していた。 ・職員は地域医療振興協会における新人研修、主任者研修、管理者研修等に参加し能力向上に努めていた。また、医師会、全国老人保健施設協会、埼玉県社会福祉協議会、看護協会等の研修にも多く参加していた。 ・職員の健康診断は法令に則り、適切に実施していた。		
4. 施設の維持管理業務(清掃、植栽管理など)及び保守点検	評価	B 適正
施設の維持管理業務及び設備の保守点検業務は、専門業者へ委託し保全に努め内容や結果等の詳細な記録を残し台帳で管理していた。また、医療設備・器具は専門業者による定期点検を実施し、精度の維持と保守管理を適切に行っていた。		
5. 施設の修繕	評価	B 適正
・医療機器・施設整備の修繕は、適宜行っていた。 ・令和5年度は、エアコン更新工事を町が実施した。		
6. 備品管理	評価	B 適正
備品にはシールを貼り台帳で管理していた。パソコン、プリンター、施設内携帯電話(PHS)等の備品は必要に応じ増設や更新を行っており台帳で管理していた。		
7. 安全・危機管理	評価	B 適正
防火管理者は消防法に基づく消防計画を作成し、年2回消防訓練を実施していた。その内1回は夜間を想定した訓練としていた。また、防災マニュアルを完備し、緊急時にはセンター長が緊急招集し指揮命令を行う組織図を作成していた。町への連絡は、保健センター担当に行うこととしている。		
8. 個人情報の管理	評価	B 適正
個人情報保護法に基づき職員及びボランティアや研修生と個人情報保護に関する誓約書を取り交わしていた。センター内の書類は個人情報保護法に則り管理庫に施錠して保管し、電子カルテ内の個人情報は施錠したサーバ室で管理していた。その他、パソコンの使用に関してもパスワードで管理するなど情報管理を徹底していた。		
9. 利用者ニーズの把握・反映	評価	B 適正
毎年2回開催している運営懇話会では町民の意見を聴取し意見を反映できるようにしているが、特に意見や要望はなかった。定期の予防接種については予約なしで接種できる体制を継続し、インフルエンザ予防接種についてはウェブでの予約を開始させる等利用者の利便性を考慮した体制を取っていた。		
10. 自主事業の実施	評価	B 適正
隣接する保育園との世代間交流事業や季節ごとのイベント、遠足、外食会等、利用者の皆さんが1年間を通して季節感を味わい、楽しんでいただけるような行事を毎年数多く実施していた。		
11. 経費節減	評価	B 適正
昨今の電力供給事情を鑑みて職員は徹底して電力使用量の削減に努めている(使用していないあるいは必要のない部屋及び時間帯の消灯や空調の温度調節等)。その他にも消耗品の節約にも心掛けている。		
12. 環境への配慮	評価	B 適正
雨水を地下に貯留し菜園や車両洗浄に利用していた。また、暑い日には散水にも利用していた。さらにセンター内では節水に努めていた。		
13. 利用者への情報提供	評価	B 適正
六花の案内リーフレットでセンターの各事業をお知らせしていた。その他、介護老人保健施設の入所及び通所リハビリの利用希望者に対しても、高齢者でも分かりやすい案内書にて丁寧な説明を心掛けていた。さらにホームページからも最新の情報発信に努めていた。		
14. 会計管理	評価	B 適正
公益法人としての会計基準に則り適正な会計を行っていた。会計法人による毎月の監査や監査法人による年度末の監査を受け、法人全体として会計管理は厳しく行っていた。なお会計内容は行政庁へ提出していた。		